

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 毎月最終例会 18:00
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 和田正敏
 幹事 田部井良和
 会報・雑誌委員長 宮尾紘司

No. 20

ロータリー2000：活動は一堅実、信望、持続

ROTARY 2000：ACT WITH CONSISTENCY, CREDIBILITY, CONTINUITY

1999～2000年度 RI会長 カルロ・ラビッツァ

きょうの例会

第831回 平成11年12月16日(木)

年末会員・家族懇親会

名古屋観光ホテル 18時～

先週の記録

第830回 平成11年12月7日(火)

晴

◆“君が代” “それでこそロータリー”

◆新入会員紹介



氏名 森 幸一
 生年月日 昭和25年12月29日
 事業所 (株)東洋テクニカ
 中区栄5-7-14
 TEL 262-0068 FAX 262-0069
 地位 代表取締役
 自宅 東区筒井2-11-4
 推薦者 河村 政孝
 職業分類 電気機械器具販売
 委員会 親睦活動

◆出席報告

会員 71 (68)名 出席 48名
 出席率 70.59%
 前々回 11月16日 (修正出席率) 100%

◆ビジター紹介 1名

◆ゲスト紹介

同朋大学 教務課 栗田 暢之氏

◆ニコボックスは紙面の都合上、次回掲載と致します。

松島国際奉仕委員長よりお願い

国際奉仕委員会の仕事の主は、青少年交換留学生のお世話、WCS(世界社会奉仕活動)、クラブとしての単独事業とありまして、青少年交換につきましては、水野民也君のお孫さんが来年3月ブラジルへ行くことが決まっております、WCSはこの地区でまとめて寄付金を出し世界奉仕へと、又単独事業としては今年で3年目となりますキャンヘルプタイランドがあります。前回この事業にご協力頂いた方には現地の生徒からお礼の手紙が届いていると思いますが、生徒への励みにもなりますので、ニューイヤーカードを送ってあげたいと思います。お手元に届いた手紙を一度事務局へお出し頂くようお願いします。

◆年末謝礼贈呈

愛知厚生年金会館・社会保険サービス(株)

田部井幹事報告

1. 本日例会終了後、年次総会を開催致しますので、全会員お残り下さい。その後、理事役員会を芙蓉の間にて開催致しますので理事役員はお集まり下さい。
2. ロータリーの友12月号とガバナー月信が来ておりますので、お帰りにお持ち下さい。
3. 次回例会は年末会員・家族懇親会で、16日(木)、午後6時より名古屋観光ホテルにて開催致しますので、14日(火)の例会はございません。

和田会長挨拶

12月1日はエイズの日です。AIDSとは、後天性免疫不全症候群のことで、その病原体はHIV(ヒト免疫不全ウイルス=エイズウイルス)です。AIDSは病原体発見以前に定義された疾患概念です。この病気は1981年アメリカで発見され、そのウイルスは1983年初めて分離され、現在、AIDSはHIV感染症の経過うち日和見感染症や二次性悪性腫瘍あるいは神経障害を

伴う病態に相当すると言うのが我が国の考え方です。

HIVに感染（血液の中に入る）すると、T4リンパ球などを破壊しその結果、全身の免疫機構が破壊され抵抗力が低下します。そのため、種々の病原菌はもちろんのこと、健康な人にとって害のない、自然環境に普通に存在している細菌、ウイルス、カビなどが体内で増殖するのを防ぎきれなくなってしまう、重い肺炎にかかったり、舌や食道にカビがはえるなどの様な病気に侵されます。現在のところまだAIDSに対して根治させる治療法は見つかっておらず、WHOを中心とする世界的制圧の努力にもかかわらず着実に全世界に拡大流行しつつあります。

AIDSの状況は、WHOとくにUNAIDS(AIDSに関する国連連合プログラム)が世界各国からの報告に基づき、HIV感染の流行状況の分析結果や、将来予測に関する情報提供を行っており、全世界で1,544,067人のAIDS患者が報告されている。しかし、実際には世界のAIDS患者発生数累計は約840万人と推計され地域別推定AIDS発生累計患者数は、アフリカ75%、北米8%、中南米7%、ヨーロッパ4%、アジア6%、オーストラリアとニュージーランド1%未満であると推定されている。推定HIV感染者は、成人が6700万人、子供1700万人、合計8400万人と推定され約600万人が既に死亡しているとみられている。

今回は、AIDS、HIVの感染、感染後の症状、予防についてと、日本の現状について話します。

先週、ジョンポール君から手紙が着きました。皆様に紹介します。

「尊敬の先生、紅葉が散り、木の根を叩き、錦のじゅうたんを敷いたようになってきました。お手紙を送ってくれてありがたうございました。先生がの手紙を讀んだらたいへん文書しくなりました。7月以來、私はよく先生と先生の「家族」に手紙を送りました。あなたの方が「この医学部の教授達に誘拐されたと思えるくらい勉強させているのです。でも、今日は余裕があって、先生にお会いした以來の話を思い出して、アメリカに帰国した後、私が作っている一人乗りの飛行機の部品検索のためカナダのモントリオールに行きました。冬はまた去年よりも不喜で帰りました。正月を過ぎ、引を引いて、日本でお正月を過ぎ、おみやげは何がよろしいでしょうか。先生の奥さんの wine tasting に誘っていただきありがとうございます。とても楽しかったです。またよろしく願います。先生が、おみやげを引かれますので、おみやげなど、引かぬよう十分にご注意ください。」

◆講演

“震災から学ぶこと”

同朋大学 教務課 栗田 暢之氏
(紹介 大口君)

1995年1月17日、阪神・淡路大震災。その失ったものはあまりに大きい。しかし、その惨状の中に一つだけ光が差したとすれば、それは「ボランティア」である。震災当初の3月末までに、20歳代の若者を中心に

被災地へ駆け付けた数は100万人とも150万人とも言われ、わが国の「ボランティア元年」となった。

震災による直接死が5520人、これに災害と相当の因果関係にあると市町村が認定した関連死910名を足した6430名が死者数である。



尊い命が、それぞれの語り尽くせぬ現実の中で失われた。またその後の被災地の「仮設住宅」で、233名もの孤独死を出してしまったことを、私たちは重く受け止めなければならない。

災害は普段から弱い立場にいる人々が、特に深刻な被害を受けがちである。緊急時はなおさら、二重の苦しみを強いられるのが弱者である。

災害大国といわれる日本において、これまでは「地縁+血縁」の関係を主として助け合い、支え合ってきた。そして阪神・淡路大震災では、多くのボランティアが被災者を救った。そのボランティア精神は人間として最も尊重されるべき意思で、これからも社会全体で大きく育てていきたいものである。しかし、反省すべき課題も数多く、善意の物資は、被災地を困らせたゴミの山となり、避難所でのお世話も、すべてボランティアがしたから、被災者の自立を遅らせた。これらを調整するコーディネーターも不足していた。私たちのボランティア社会はまだまだこれからである。震災から学び、そのことを多くの人に伝え、つないでいかなければならない。

年次総会

- ・2000～01年度理事役員の件
- ・海外姉妹提携取り止めの件
- ・理事（会計長）西川君承認の件

上記、全会員にて承認されました。

◆12月度理事役員会議議題（12/7）

1. 社会奉仕委員会事業の件
2. 長期欠席の件
3. 名古屋名城RAC報告事項

◆次回例会（12月21日）

卓話 “書について —あれやこれや—”

会員 黒野 貞夫君